

# オフィス 大変革時代

Introduction

# 「理想」



Sun  
microsystems

# へつな が る ネ ッ ト ワ ー ク

■エントランス

ワークスタイルの変革に伴い、  
オフィス・マネジメント形態として珍しいものではなくなった  
フリーアドレス型オフィス。  
しかし、その理論を的確に実践するためには、  
オフィス環境をサポートする  
情報ネットワーク技術の成熟を待たねばならなかった。  
グローバルに事業展開する企業が研鑽を積んだ  
フリーアドレスの進化型——  
それがサン・マイクロシステムズが推進する“フレキシブル・オフィス”である。





■エンプロイラウンジ



## 営業基盤をバックアップする“FO”

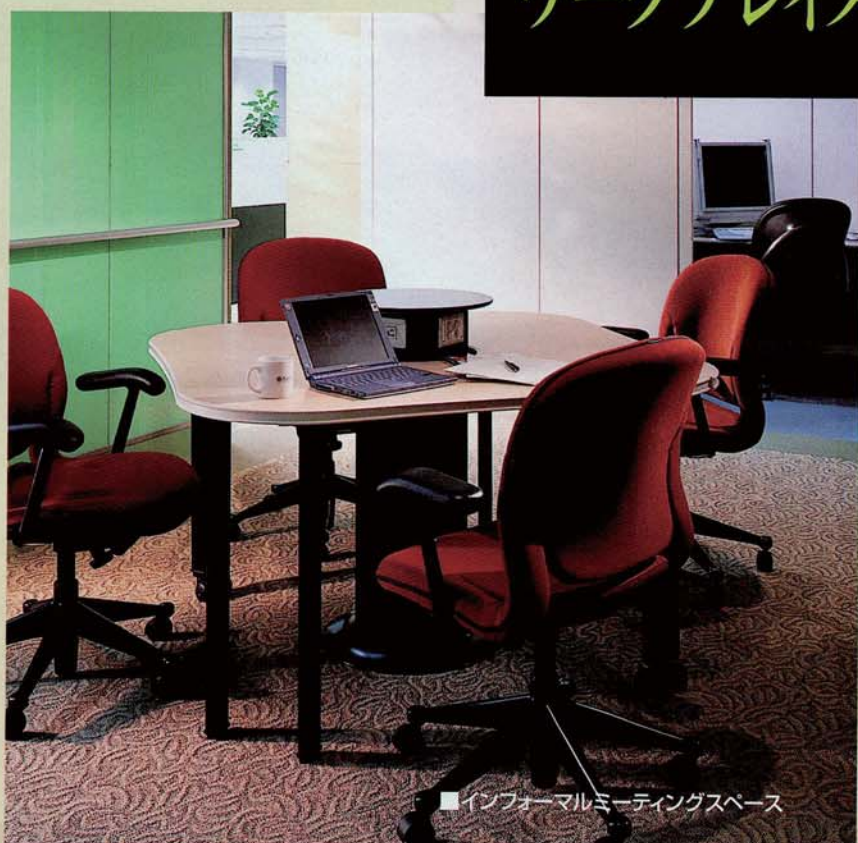
米国で創業し、世界45か国に事業拠点を展開するサン・マイクロシステムズ。同社は、ネットワーク・コンピューティング市場において、グローバルな成長を続ける代表的な企業の一つである。その日本法人が東京に設立されたのは、1986年。そして、今年3月、同社は新たな事業拠点として、千代田区永田町の「山王パークタワー」に山王オフィスを開設した。都心中心部の駅直結ビルに拠点を置くことで、クライアント企業やパートナー企業との間のコミュニケー

ションを緊密化し、市場の要望にスピーディに対応するのがねらいである。そのオフィスに導入されたメインコンセプトは、サンが全世界で推進する“フレキシブル・オフィス(FO)”。これは、社員一人一人に固定のデスクを提供する従来型オフィスではなく、プロジェクトや業務目的に応じて、個人用ワークスペースやグループオフィスなどをフレキシブルに使い分けるオフィス形態。業務効率の向上と営業活動の強化へ向けた基盤づくりを図るものである。

「.COM」時代を  
先導する  
ワークプレイス

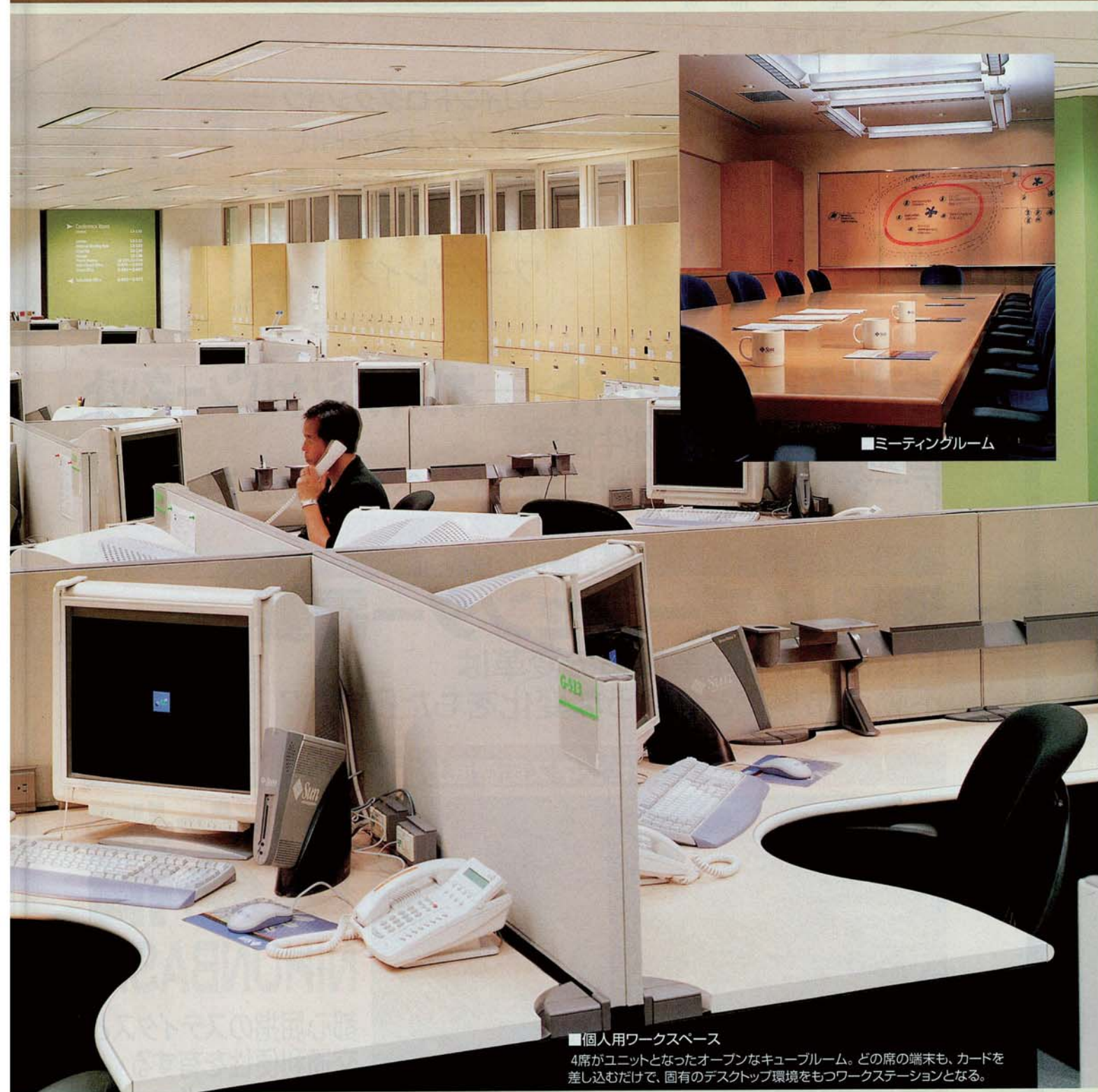
## 二つの大変革が支える オフィス形態

FOと同様な理念をもったフリーアドレス型のオフィスは、従来から呼称やディテールを変え、各社で試みられてきた。しかし、定着しなかった例は決して少なくない。では、同社のFOと一般的なフリーアドレス型オフィスとの違いは何か。それは、コンセプトを支える大きな“二つの変革”にある。一つは、ワークスタイルの変化に伴う、ツリー状の従来型組織形態からの脱却。上司の周りに部下が集まるスタイルではなく、プロジェクトベースで随時かつ機動的にグループが編成されるため、固定化した座席が不要となった。そして、もう一つの変革が、情報インフラのアーキテクチャーの格段の進化。つまり、FOに適合したネットワーク環境の構築が可能となったことである。



■インフォーマルミーティングスペース





■ミーティングルーム

■個人用ワークスペース

4席がユニットとなったオープンなキューブルーム。どの席の端末も、カードを差し込むだけで、固有のデスクトップ環境をもつワークステーションとなる。

## 情報技術の拡充がもたらすもの

情報システムには、同社が開発した“Sun Rayエンタープライズ・システム”を採用。これは、資源をすべてサーバー側に集約させたもので、オフィス内のどの端末からでも、個人認証のカードを差し込むだけで、ワーカー固有のオペレーティング環境とアプリケーションが、前回終了時と全く同じ状態で瞬時に復元されるのが特徴だ。システムの起動、アプリケーションの再起

動やデータの回復に消費される時間の短縮と、作業効率の低下を防ぐメリットがあり、フレキシブルな座席変更が可能となった。また、サーバーを集中管理することにより、性能向上や新しいアプリケーションの導入作業も一度行うだけで済み、管理コストの大幅削減につながった。デスクトップに本体を置かず、ディスク装置や冷却ファンが存在しないため、空調効率がよく、騒音の

ない快適なオフィス環境が実現されるのも、大きな利点の一つ。さらに、電話も、パスワード入力でログインし、どこからでも固有の環境が設定された電話として使用できる。この山王オフィスは、ネットワーク・コンピューティングを基軸に展開するサンが、グループ全体でノウハウを蓄積し、改善を重ねたFOの完成型として、一つのショーケースとなっている。